



メンタルヘルス・健康づくり分科会

会場 みやこめっせ [京都市左京区岡崎成勝寺町9-1]

交通 京都市営地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩8分

10月24日(木) プログラム(9:00開場)

9:30

- ① 健康生成論的思考と緩和要因の増強に着目した職場環境改善活動の展開について

(株)本田技術研究所 統括機能本部
人事企画室 栃木 健康管理センター

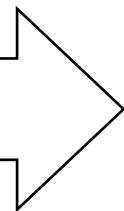
深澤 理恵

活き活きと働くためには職場環境改善が重要と考える。高負荷状況にある職場に入り緩和要因の増加、個人のストレス対処能力の向上を目的とし健康生成論的思考に着目した活動を展開した。所属長と信頼関係を築きながら連携した活動を展開することで改善が認められたので紹介する。

9:50

46

次ページにつづく





メンタルヘルス・健康づくり分科会

9:50

② 従業員参加型の職場環境改善（職場ドック）の取り組みについて

(一財)京都工場保健会
御池メンタルサポートセンター

山根 英之

2013年度から当会がA自治体の従業員参加型の職場環境改善活動「職場ドック」に関わることになった。その後に複数の企業で「職場ドック」を展開する中で、その有用性や汎用性の高さを実感したが、いくつかの課題も認識した。展開に当たっての留意点や工夫について紹介したい。

③ 製薬業界におけるストレスチェックに関する取り組みについて

日本新薬(株)
総務部 健康推進室

吉田 直美

ストレスチェックの積極的取り組みについて健康産業である製薬業界での義務化後の動向を調査した。実施体制・方法・受検率・事後対応等の調査の結果、集団分析結果の取扱いが難しいとしつつもそれぞれの取り組みを実施しながら職場環境改善に努めていることがうかがえる結果であった。

④ 衛生巡視で行うメンタルヘルス対策（第2報）～事業場での取り組み紹介～

パナソニック健康保険組合
健康開発センター 課長

和久 純也

昨年の大会でTOMH(東京大学職場のメンタルヘルス専門家養成プログラム)の班の検討により発表したメンタルヘルスの観点からのチェックリストを、当事業場で2018年度から衛生管理者の巡視に使用し、巡視結果や改善内容を衛生委員会で共有している取り組みについて紹介する。

⑤ 当社のメンタルヘルス対策とその成果～職場相談員との連携から分かったこと～

アイシン軽金属(株)
安全環境部 ウエルネスセンターなごむGTL

今度 悠樹

当社では2010年よりストレスチェックと共に職場相談員制度を実施している。話を聴ける人を各職場から選出し、従業員の心の健康状態をキャッチする受“心”機となり、職場いきいき度Upに向け活動している。未然防止や早期対応につながるケースが増え新規発症者は減少傾向にある。

⑥ SCREENグループのメンタルヘルス対応について

(株)SCREENビジネスエキスパート
環境サステナビリティ事業部 健康衛生部

諏訪 美紀

当社ではメンタルヘルス不調者が急激に増加した2007年よりメンタルヘルス対策に本格的に着手し、現在はメンタル不調休業者がピークの半分以下となった。個人向けから始まった対応の経緯から施策、現状とストレスチェック法制後の集団分析への対応、今後の課題について報告する。

⑦ 新入社員のスムーズな職場適応に向けた取り組み～指導担当者への支援体制の検討～

東日本旅客鉄道(株) JR東日本健康推進センター
保健看護室 看護師

高橋 朋子

当社最大の使命である「安全・安定輸送」。その土台となるのは、社員一人ひとりの健康である。入社当初より、職場で長時間共に過ごし指導を行う管理者が新入社員に対し健康管理の視点をもち指導にあたることが望ましい。今回、指導を行う管理者向けの支援体制を検討したので報告する。

最新の労働衛生に関する動きについて

厚生労働省 労働基準局
安全衛生部 労働衛生課長

神ノ田 昌博

働き方改革や平成30年度から開始した第13次労働災害防止計画(13次防)も含め、最近の職場におけるメンタルヘルス対策、治療と仕事の両立支援、腰痛予防対策等の労働衛生に係る動きについて紹介する。

⑧ 安全衛生と健康確保に向けた取り組み

日本電気化学(株) 加悦工場
電子機器製造課 係長

小田 芳男

当事業場は、平成30年度京都府労働局長表彰《奨励賞》を受賞し、また、京都府より「きょうと健康づくり実践企業」として認証を受けている。その認証基準に至る取り組みと共に、安全衛生、健康確保に向けた様々な取り組みを紹介する。

⑨ 「ヘルスリテラシー」を高めるための健康支援の検討

東海旅客鉄道(株)
健康管理センター 静岡健康管理室 保健師

新後 舞

ヘルスリテラシー(以下HL)の現状を把握し、高めるための健康支援を検討した。独自のパンフレットを作成・送付することで健康意識を高め、面談でより具体的な生活改善をサポートするなど段階的な支援を実施することがHLを向上させるうえで効率的・効果的であることが示唆された。

特別報告

(14:30～14:40 休憩) 14:40

メンタル等



メンタルヘルス・健康づくり分科会

14:40

- 10 わが社の健康経営の取り組み～外部評価の活用による課題の顕在化～

第一工業製薬株
人事総務本部総務部 主任スタッフ

福沢 郁子

大正8年から全従業員に対して健康診断を実施する等積極的な健康管理を進めてきた歴史がある。2016年3月末に健保組合を解散し協会けんぽに移行したが、解散後も、この文化を守り、健康経営を進めている。ホワイト500、DBJ健康経営格付けの取り組みなど活動内容を発表する。

- 11 健康経営に取り組むことで、職場環境を整備し、地元にも貢献できる企業を目指して

池田薬草株
代表取締役社長

三浦 宏之

15:00

弊社は、2018年7月に第一工業製薬株式会社の完全子会社になった。その後、同社の指導の下、健康経営に取り組んできた。規定類の見直し、就業管理システムの導入、保健指導の実施など従業員の健康増進の取り組みの充実など実施した内容とその際の苦労話などを発表する。

- 12 新たな健康づくり活動「健康チャレンジ8」の導入と推進活動について

トヨタ自動車株
安全健康推進部 健康推進室 主任

神田 多栄

15:20

これまで肥満率と喫煙率の低減に向けた健康づくり活動を開催してきたが、近年、下げ止まりの状況が続いている。そこで全ての従業員が「一つでも多く」あるいは「もっといい」にチャレンジできる8つの健康習慣にターゲットをあてた新たな健康づくり活動を全社展開したので紹介する。

(15:40～15:50 休憩) 15:50

- 講演 健康経営の意義とトップの役割

JXTG ホールディングス株
代表取締役 副社長執行役員

武藤 潤

安全(S)、健康(H)、環境(E)は、経営の大前提であり、歴史的に優れた企業は、業績も良い。とりわけ従業員が生き活きと働くことは、企業競争力の源泉である。健康への取り組みを経営としてコミットすることは持続的な企業価値向上につながり、ESG経営の一環である。長年 SH&E活動をリードしてきた武藤講師が、健康経営の意義と、トップの役割を解説する。

17:00

10月25日(金) プログラム(9:00開場)

9:30

- 13 現場力の発揮に向けた職場＆安全衛生スタッフ連携による転倒予防・健康増進活動の歩み

日本製鉄株 和歌山製鉄所
安全健康室((一財)NS メディカル・ヘルスケアサービス)
伊藤 克之

当社は、職場の自主運営による体力測定を全ての事業所に展開している。体力測定の定着と体力の自覚が促され、運動習慣や体力向上が次の目標となっている。和歌山製鉄所では、職場と安全衛生スタッフが連携した体力アップ運動の導入を試みたので、その結果を報告する。

- 14 「職場の仲間を業務災害から守るために」～0災への道程～

日本たばこ産業株 関西工場
製造部 主任

苅田 俊輔

9:50

機械の安全対策などハード面の対策に加え、ルール遵守や注意し合える職場風土醸成等、ソフト面の対策にも重点を置き活動してきた。しかし、直近で発生した災害の多くが腰痛・転倒など生活系災害であるため、ハード面・ソフト面に加え、心身の健康意識増進に向けた取り組みについて発表する。

10:10

- 15 生活習慣病予防から女性従業員の運動習慣向上に向けた取り組み

株日立建機ティエラ
総務部 人事・総務グループ 主任 産業看護師
柏木 緑

生活習慣病予防に向けた健康づくり施策に、従業員に魅力的なインセンティブを取り入れたことにより、運動習慣の改善に繋がった。また女性オフサイトミーティングに働きかけ若年層や運動不十分層から社内にて「ヨガ教室」が発足となった。健康意識の向上や運動習慣の改善に繋がった取り組みを報告する。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

- 16 JFEスチール千葉地区における喫煙対策「Smoke Free JFE 千葉」

JFEスチール株 東日本製鉄所 千葉地区
安全健康室 健康管理センター 保健師
森廣 麻紀

JFEホールディングスが2016年に健康宣言を発表したことを受け、弊社は健康活動目標を作成し、活動を推進している。目標の中には喫煙率の低下があり、千葉地区では喫煙率37%から25%に改善が必要となったため、禁煙推進計画を作成し、活動を展開しているので報告する。

11:00



メンタルヘルス・健康づくり分科会

11:00

- ⑯ 三菱電機グループヘルスプラン21の実践と受動喫煙防止対策における取り組みと成果
三菱電機(株) 京都製作所
総務部 総務課

高橋 慶光

健康経営を目的とした三菱電機グループヘルスプラン21の実践を通して受動喫煙防止対策を行った。禁煙の日の制定やパトロール、講習会などの取り組みにより、事業所内の喫煙率は近年低下傾向にある。今後も引き続き対策を実施し、将来的な全面禁煙に向け、活動を強化していく。

- ⑰ 乗務員の睡眠の質向上によるミスの減少と健康意識向上への取り組み
東日本旅客鉄道(株)
習志野運輸区 主任運転士

會川 陽介

11:20

乗務員は一人ひとりの出退勤時刻が異なり、睡眠時間も不規則になる。職場では睡眠に関するミスが多発している。泊まり勤務時に質の高い睡眠が取れるように衛生、騒音、食事、入浴、睡眠時の服装、リラックスの点からソフト面の環境整備を行い健康意識向上、ミスの減少を目指す。

- ⑱ 「企業における健康確保対策の進め方検討委員会」(厚生労働省補助事業)報告
中央労働災害防止協会
健康快適推進部 次長

土井 智史

11:40

健康経営の広がりやコラボヘルスの取組みなど、企業の健康づくり活動が変化していることを踏まえ、中災防では有識者で構成する検討会を設置し、厚生労働大臣指針の改訂を見据えて「今後の健康づくり活動に向けた提言」をまとめたので報告する。

- ⑲ 健康管理の出発点は入社前から

(株)島津製作所
人事部 健康安全センター 保健師

小山 正美

(12:10 ~ 13:10 昼休み) 13:10

近年、新入社員の入社時健診の有所見率が増加している。そのため、内定時・入社時の健康講話、健診後の社内精査、配属後全員への保健師面談を通じ、健康的な生活習慣への働きかけを行っている。保健師面談では、人事部・職場との連携により、職場不適応の早期対応にもつながっている。

- ⑳ 事業所内での活動量 + 10 に向けた取り組み

ジャパン マリンユナイテッド(株) 舞鶴事業所
安全衛生グループ 舞鶴診療所 看護師

矢田 雅美

13:30

現場職に比べ、スタッフ職(事務職)は肥満度が高いという問題があった。スタッフ職の活動量を高めるため、広い敷地を活かしたコース設定や、定期的なイベント開催により、参加意識を高めた。腕時計型活動量計を使用し、肥満度改善効果と運動週間の継続について検証した。

(13:50 ~ 14:00 休憩) 14:00

- 人生100年時代 いかに元気で働くか

鼎談
【出演者】 (株)高齢社 代表取締役社長

茶道家 茶道 武者小路千家官休庵 準教授

京都大学 名誉教授・京都産業大学 客員教授

緒形 憲
藤村 道代
森谷 敏夫

15:30

メンタルヘルス・健康づくり分科会 会場にて
「ストレスチェック相談コーナー」開催！